

自立活動の部屋 ～かがやき☆自立活動通信～

平成31年3月11日



埼玉県立草加かがやき特別支援学校 自立活動専任

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。草加かがやき特別支援学校で過ごした時間はどのようなものだったでしょうか。きっと語り尽くせないくらいのたくさんの思い出を胸に卒業の日を迎え、それぞれが新たなステージへと旅立っていくことでしょう。保護者の皆様、1年間自立活動の指導に関してご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。保護者の皆様と協力・連携できたことで、よりよい指導・支援へとつながり、無事に卒業の日を迎えることができました。

今年度の自立活動通信の最終号は、卒業生の皆さんに贈る言葉です。自立活動の時間を通して、私たちもたくさんのことを皆さんから学ばせていただきました。卒業後も、色々なことがあると思いますが、いつまでも皆さんの応援団でい続けたいと思います。

Giúp tôi với!!(ズップ トイ ボイ) ～ちょっと手伝って下さい～

篠田紗枝

私が自立活動の時間に大切にしていたことの一つに「困った時に『手伝ってほしい』という気持ちが伝えられるようになること」があります。皆さんは、伝える人の手を引く、両手を合わせて「お願い」の身振りをする、言葉で「やって下さい」「手伝って下さい」と伝えるなど、さまざまな方法で自分の気持ちを伝えてくれました。「人に頼らずに最後まで自分でやり抜く力」も大切な力です。しかし、「困った時に助けを求める力」も私たちが生活していく上でとても大切な力だと気付かせてくれたのは、ベトナムでの約2年間の経験でした。日本語が通じず、文化も価値観も異なる環境の中で、人に頼らず自分の力を試すこともできたかもしれませんが、自分の力ではどうにもできないことが山のようにありました。困った時にはベトナムの方に辞書を片手に不慣れなベトナム語や身振りで自分の気持ちを一生懸命伝えました。お世話好きなベトナムの方は、親身になって助けてくれました。「困った時に助けを求める」という選択肢があることを知り、それを伝える方法が自分の中にあることが重要なのだと思いました。日本にも親切な人はたくさんいます。「困った時に助けてもらい困ったことが解決できた」という経験を積むことで、「困った時に助けを求める力」がより確かなものになり、自分の世界を広げていながら自分のもつ力を発揮して豊かな生活を送ることへとつながっていくのではないかと考えています。



野中文奈

できたこと、できていることを大切に

自立活動専任は自立活動の授業を中心に、さまざまなクラスの子どもたちとつながる機会があります。授業を見るたびに子どもたちの良い変化が見られ、子どもたちのもつ力や可能性に限界はないのだと教えてもらいました。新しいことができるようになることはもちろん大切です。しかし、「できたことが継続してできていること」もこれからの生活には必要な力だと思います。また、ほめたときの子どもたちの表情には、達成感や充実感、自分を認めてもらえた安心が感じられます。子どもたちの良いところをたくさん言葉にして返していただけたら嬉しいです。家族の皆さんからほめてもらった経験が日々の生活を乗り切る力になると思います。

学校生活のさまざまな場面で培ってきたことを、『どんな時間でも、どんな場所でも、どんな相手にでも』発揮できるようにと、『いつでも、どこでも、だれとでも』のキーワードを意識して自立活動の授業作りに取り組んできました。学校での学びが今後の子どもたちの支えになってくれることを期待しています。